



みんなで「ののさまにごあいさつ」(御同朋総集一万人大会にて)

く別院だよりく

モダン寺新聞

第20号

発行所

浄土真宗本願寺派 本願寺神戸別院
〒650-0011
神戸市中央区下山手通八丁目番号
TEL 078-341-5949

一口法話 「報恩講」

報恩講は親鸞聖人のみ教えに生きる私たちが、聖人のご苦勞に感謝し、ご恩に報いるために年に一度おつとめする、大切な法要であります。

報恩講をお迎えするにあたってみなさま、しんらんさまを知っていますか。わたし自身今もなお、しんらんさまを追ひ求めています。まず、知るとはどういうことでしょうか。みなさまは米を知っていますか。米を見て知っているのと、米の味を知っているのと、米の穂までのすべてを知っているとは大きな違いがあります。そのように、しんらんさまを奥深く知るに三つのことが言えます。

一つに、学問にたけ經典の心をより深く読みとられ、自ら実行された人であること。二つに、時の権力、財欲・名譽欲に屈することなく純粹に仏教を見つめ、一生涯をついやし、南無阿彌陀仏のみ教えを聖典にまとめ、大いなる願いに生きた人であること。三つに、自ら肉食妻帯し苦惱の人々と朋に乱世を生きぬかれ、人間として生きる苦しみ、悲しみ、慈しみ、ぬくもり、慶びを体感された人がしんらんさまです。そのしんらんさまを支えた教えが真の仏教です。

仏教をお説きになられたお釈迦さまは、苦惱に満ち満ちた十方衆生を救済する仏さまとして、阿彌陀如来さまをおすすめになされました。十方衆生とは、すなわち四方八方に上下を加えて十方といい、衆生とは、生きとし生けるものすべてをいいます。すなわち、この世でもれるものがない、この世でもらすことのない優れた救済を成就された如来さまなのです。

その如来さまからたまわる「信心」二つが、ほとけさまとならせていただくお救いであるとしんらんさまはお説きくださいます。「信心」とは、阿彌陀如来さまからたまわる「信心」二つであり、疑いや計らいが取り除かれ、一步を踏み出す勇氣のない私の一步となる力であります。

しんらんさまをお慕いする心は、お人柄を通し私自身の無明(煩惱・闇)に気づかせていただき、幾重にも幾重にものお育てにあずかり、恩徳の広大さを知らされるのであります。しんらんさまのお歓びになられた「信心」の深きことがいよいよ偲ばれ、お念仏の味わいが深まる報恩講でございます。

北撰組 広宣寺 門中 浄光

合掌

第10回

「仏教 ことが知りたい」

「法名と戒名って宗旨で呼び方が違うだけでしょ？」「私はまだまだ元気で、法名はあんまり関係ないわ」「できるだけ長い名前を付けてあげてくださいな」

法名についてはいろいろな質問をお受けすることがあります。何といっても自分のそして大切な方の「名前」についてですから当然でしょう。今回はその「法名」についてです。

法名と戒名

一番に混乱をまねくものはこの「法名」と「戒名」との違いについてでありましょう。どちらも「①仏教徒としての名乗り」で、だからこそ「②生前につけていただくのが望ましい」ものですから、形だけを捉えれば良く似ています。また、最近は生前につけていただくことがかなわなかった場合が多いからか「③故人につけていただく名前」と誤解されている「ことも良く似ています」。

しかし、法名と戒名は形こそ似ているものの、性質はまったく異なります。

戒名の「戒」とは「修行を行おうとする自発的な精神」のことです。したがって戒名は「修行をして戒を守る（受戒する）者の名前」ということになります。たとえば「信士・信女」は「戒律を守りながら教団より教えを受ける在家信者」という修行の仕方をあらわします。

対して、私たち浄土真宗のみ教えを聴聞するものに「戒」はありません。親鸞聖人は自らのことを「愚禿釈親鸞」と名乗られました。愚禿とは、親鸞聖人が自らえらばれた号で、愚は賢・智に対し、禿は剃髪せず結髪もしないさまをいうそうです。つまり、自らを無智愚悪の禿比丘（破戒の僧）であると名乗られたのです。その上で釈尊の弟子である、仏教徒であるとの意味をこめ「釈」と名乗られたのです。釈尊の真実の浄土の教えは阿弥陀如来のみ教えであるからこそ、浄土真宗と呼ばれたのです。

私たちがいただく「釈○○」という二文字の名前は、「釈尊の弟子」でありかつ「無戒」であることを表しています。ですから戒を守るものの名前ではなく、み法を聴聞するものの名前

「法名」と表すのです。

仏弟子の自覚を持つて聴聞するときの私の名前が「法名」なのです。



帰敬式つて

先にあげたとおり、法名は自らが真宗門徒の名乗りをするという名前で、すから、生きている間に名乗って頂くのが本来でしょう。法名をいただく儀式のことを「帰敬式（ききようしき）」といいます。「帰敬式」ではご門主におかみそりをいただく、法名を付けていただきます。

その場合、法名の文字についてはお聖教の中から選んでいただいています。しかし、普段から使っている自分の名前

（俗名）とかけ離れている場合も多く、そのことから「いずれ自分ことを知つてご住職につけていただく」と帰敬式の受式をしないかたもおられるのかもしれませんが。

しかし、今年の春から宗門の規定が改正されて、法名の希望を伝えることができるようになりました（内願法名）。例えば俗名から一文字お聖教から一文字いただいて、釈○○にてお願いしますと伝えた場合、許可が下りればそうにつけていただけます。

帰敬式では受式者が三帰依文を称えます。「南無帰依仏、南無帰依法、南無帰依僧」と、仏さまのお法をよりどころにして生きていくお仲間にならせていただきますと、仏さまにご報告申し上げるのです。

浄土真宗をいただくお仲間として、繰り合わせて、帰敬式を受けに本山参拝したいものです。

帰敬式受式について

帰敬式は毎日2回、晨朝後引き続きと午後一時三十分より執り行われます（本山行事の日は除く）。

ご希望の方は詳細を神戸別院までお尋ねください。

◆◆◆◆◆ 神戸別院行事レポート ◆◆◆◆◆

御同朋総結集二万人大会

過ぎる十月三十一日(日)、神戸ウイングスタジアムにおいて、兵庫教区御同朋総結集一万人大会が行われ、本願寺神戸別院よりも百三十六人が参加いたしました。参加者より松井別院仏壮会長にレポートをいただきました。

(大会写真は三面に掲載)

兵庫教区御同朋総結集一万人大会が平成十六年十月三十一日(日)、神戸ウイングスタジアムにおいて、新門様をお迎えして行われました。

前日、総代・仏壮・仏婦・仏青・スカウトなどの教化団体、青僧会など僧侶・門信徒の方々をスタッフとして、レジュメ・記念品・資料の袋詰めや準備作業が行われました。

そして迎えた大会当日には、一万三千四百人余りの参加をみました。九時過ぎより送迎のバスが続々と来場し、出迎えのスタッフとの間に「ようこそ」との喜びの声「ご苦勞さまです」との感謝の会話が交わされました。かわいい園児三百六十六名もバスに

に参加者も嬉しそうでした。

十二時より始まったオリエンテーションに続いて第一部「式典」が執り行われました。特に園児による讃歌「のさまにごあいさつ」のシーンは感動でした。

スカウトの開会宣言に引き続き、正信偈六首引(草譜)が、新門様ともども一万三千四百人の唱和となり、広いスタジアムいっぱいに厳かに響きわたり、胸いっぱいになったことでした。そして大会実行委員長のご挨拶、新門様のお言葉をいただきました。

井上博雄大会実行委員長には、本大会を通じて一人ひとりが念仏者の自覚と実践を確認し、基幹運動の推進者たるべく新たな一歩の踏み出しを明らかにしていただきました。

新門様には、組画変更の目指したものの確認と、震災時の助け合って復興に取り組んだ体験をもとに、阿弥陀如来のみ教えに生きる念仏者が協力して基幹運動が推進されるよう念願している、とのお言葉をいただいたことでありました。

第二部は「学びと点検」と題され、神戸中組の廣岡行信氏より「組画変更二十年」、神戸東組の藤川正敏氏

より「大震災十年」、宍粟組の大西耕雲氏より「御同朋の社会の実現をめざして」との提言を、それぞれにいただきました。

武蔵野大学教授の山崎龍明師にまとめのご法話「聞こう伝えよう阿弥陀仏のこころ」をいただき、人が人となる道を聴聞させていただきました。

第三部では、杉良太郎氏によるトークがあり、福祉の心を中心としたお話に感動をうけたことです。

また、第一部・第三部にはコーラスがあり、会場いっぱいの合唱が波打ちました。

閉会式には、本山随行長の速水宗讓総務のご挨拶、続いて井上悦子兵庫教区仏婦連盟会長による大会宣言があり、参加者一同に同調したことでした。

大会を通して荘厳と感動の集まりであつたと感じたことです。参加者それぞれに帰路につかれるときも、その感動が見受けられることでした。

(仏教壮年会 松井須美男)

神戸別院は兵庫教区という宗門の行政区分に含まれており、七百七十ヶ寺約五万人のお仲間とともに、

お法をいただいております。この大会を新たな機縁に、ますます聞法に励みたいと思います。

仏教婦人会研修旅行



萬行寺にて記念写真

七月二十一日、神戸別院仏教婦人会研修旅行が参加者二十一名をむかえ開催されました。

今年の研修先は淡路島でした。淡路島には九ヶ寺の本願寺派寺院があり淡路組という集まりを持っています。その中の萬行寺を参拝させていただきました。島内での念仏のお仲間の活動について、また歴史について、ご法話をいただきました。また震災記念館を訪れ、震災の教訓を新たにしました。

別院行事予定

十二月

○ 第一土曜仏教講座

四日(土)

午後一時三十分より

講師 淡路介護老人福祉施設

ビハール施設長

野村 康 治 師

講題 「いのちの記念日」

○ 別院仏婦定例法座

休座

○ 別院常例法座

十五日(水)・十六日(木)

午後一時三十分より

講師 神明組 光源寺

宮里 俊 哲 師

講題 「平等の心と私の救い」

○ 除夜会

三十一日(金)

午後五時より



一月

○ 元旦会

一日(土)

午前七時より

○ 別院常例法座

十五日(土)・十六日(日)

午後一時三十分より

講師 未定

講題 未定

○ 阪神・淡路大震災

物故者総追悼法要

十七日(月)

午後一時三十分より

「いのち」を考える特別研修会

午後二時三十分より

講師 未定

講題 未定

○ 別院仏婦報恩講

二十日(木)

午後一時三十分より

講師 本願寺神戸別院輪番

井上 博 雄 師

講題 未定

□ 土曜講座

第一土曜以外の土曜日

午後一時三十分より



台風23号の復興支援

台風二十三号及び新潟県中越地

震復興支援義援金をお願い

台風二十三号の豊岡・出石や淡路島などの被害、また新潟県中越地震の未曾有の被害は、大震災を経験する私たちにとって、他人事ではない事態です。

この被災に対する復興支援義援金受け入れ窓口が、兵庫教区教務所(神戸別院内)に開設されましたので、是非ともご協力をお願いいたします。

義援金受付窓口

◎ 兵庫教区教務所

本願寺神戸別院内に所在

義援金受入口座

◎ 郵便振替口座

口座名

兵庫教区教務所

口座番号

01140096231

直接の場合は別院二階事務所まで、また振替の場合、必ず通信欄に「台風二十三号・新潟県中越地震災害義援金」とお書き添え下さい。

法務日誌

寒さが深まりいよいよ冬の到来を肌で感じる今日この頃です。毎月の月参りでみなさまの家に伺うとき、日々深まる紅葉を眺めながら、月日の移り変わりを知らされます。普段なにげなく過ごすこの一日が、本当はたいへんに貴重なものであると思わされるのは、そのような時です。朝をむかえるたび、いたいた「いのち」を大事に聴聞していかねば、と心新たにさせていただきます。